

6月8日（木）、3年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。

単元は「すじみちを立てて発表しよう」です。この単元では、自分の宝物について紹介をする活動を通して、「話の中心（いちばん伝えたいこと）」を伝えたり、聞き取ったりすることができるようにします。今回の授業では、言いたいことが伝わる発表メモを作るために、話の構成をグループで話し合います。

初めに、教科書に載っている、「森本さん」のグループの発表の様子を読みました。森本さんの発表を聞いた友達がアドバイスをし、発表メモを改善していく様子です。ここで、教師が、「発表メモのどんなところが変わりましたか」と質問しました。すると、児童は、「話す順番が変わった」や「呼び掛けの部分が詳しくなった」と、言いたいことが伝わる発表メモの構成に着目することができました。



【教科書で確認する児童】

次は、いよいよ自分たちの番です。グループになり、一人ずつ発表メモを基に、宝物について話します。このとき、「宝物の写真は発表の最後に見せる」というルールを設けました。そうすることで、「宝物ってこんなふうだったの？」と、話し手の「話の中心（いちばん伝えたいこと）」と聞き手の「話の中心（いちばん伝わってきたこと）」のズレに気付かせることができます。



【宝物を発表し合う児童】

「『話の中心』が分からなかった」という児童がいました。その言葉を拾って、「話の中心」を伝えるためには、発表メモをどのように直すとよいのかを、教科書の例を参考に話し合い、アドバイスを出し合いました。そして、発表メモを見直したり、作り直したりして、言いたいことが伝わるようにしました。



【アドバイスを出し合う児童】

その後は、朝の会のスピーチで、自分の宝物を紹介しました。レベルアップした発表メモを基に、堂々と発表する姿が見られました。自分の宝物の気に入っているところや、宝物とのエピソードを詳しく話すことができていました。



【スピーチをする児童】

「やってみただけどうまくいかなかった」という経験は、学習のチャンスです。今回の授業では、教科書にある失敗例を取り上げることで児童の失敗への抵抗感を下げています。そして、「うまく伝わらなかった」という経験を基に、よりよい発表メモを作ろうという学習意欲につなげています。今後も、児童が失敗を恐れず、「うまくいかなかったから、次はこうしてみよう」と主体的に取り組んでいけるような授業を考えていきたいです。